

都市居住再生に資する中間領域組織活動に関する調査報告書

1) 活動の背景

宮崎市

- ・ 第3次宮崎市総合計画策定（基本構想）
 - ・ 都市計画総合マスタープラン策定
 - ・ 平成10年 中心市街地活性化基本計画
 - ・ 平成12年 1部変更
 橘通りを中心として217haの地区を「宮崎市中心市街地地区」と定め課題に取り組むとしている
- 商業活性化
にぎわいの創出
都市居住
交通環境の改善の課題に取り組む

上記のような基本計画にもとづきながら活性化の方向が探られた。しかし中心市街地は空洞化し大型店舗進出問題で商業者だけでは解決出来ない状況になっている。

- ・ 「市民参画による市政研究会」のまちづくり提言 平成11年～13年
- ・ 太陽銀行跡地広場ワーキンググループによる提案作成 平成14年8月

宮崎商工会議所 において、宮崎TMO事業実施中

その他

「まちづくりフォーラム」をNPO団体中心に開催 平成13年～継続

2) 活動の経緯と目的

経緯

平成12年	宮崎市企画課	市民参画による市政研究会に参加 「地域性豊かな文化の香るまちづくり」を提言
平成12年 9月	NPO法人みやざき子ども文化センターとして認証	
平成12年12月	宮崎市橘通西2丁目5-20事務所開設	
	宮崎市橘通振興組合に入会・NPO法人について組合委員に説明	
平成13年 5月	楠並木コリドール実行委員会に参加	「子ども広場の担当」
平成13年 8月	「まちづくりフォーラム」にパネラーとして参加	
	子どもを視点にしたまちづくりを提案 3回開催	
	* 商店主、学生、福祉、大学、NPO関係者で構成	
10月	宮崎市教育委員会文化振興課円卓会議に参加	
~	完全学校週5日制導入にむけて文化拠点づくりを論議	
	「まちななかプレイパーク」の骨子の作成	
平成14年	* 商店主、小学校、大学教授、行政、NPO関係者で構成（円卓会議）	
2月	DO真ん中フェスタを開催	
	プレ「まちななかプレイパーク」として商店街とNPOと初めて開催。成功のうちに終わる。	
6月	宮崎大学教育文化学部	まちづくりゼミを当法人事務所にて開講
現在	理事と学生の意見交換（文化行政、NPOについて）	
7月	「まちななかプレイパーク」事業を宮崎商工会議所より業務委託	
	事業回数 130回	集客数 15,000人
他団体	宮崎県	人権フェスなどに参加
	宮崎市	委託事業（スクールコンサート事業・ふるさと先生・緊急雇用市民活動意識調査）・その他委員会に参加
	宮崎商工会議所	「まちななかプレイパーク事業」業務委託 TMO委員会委員として参加
	NPOみやざき	宮崎市民活動支援センターと協力
	子育て関係団体	情報交換、及び同事務所にて連携
	中心商店街	事業協力
	田中寛一郎	事務所提供者
	井上 秀夫	事務所提供者
	宮崎大学教育文化学部	ゼミ開講 ゼミ生として参加

目 的

宮崎市の中心市街地の人口はこの20年間減少し続けており、現在も中心市街地の空洞化が進んでいる。これは、モータリゼーションの進展による居住・事業所・大学・病院の郊外化、またそれにとまなう郊外型大型小売店の増加によるものと考えられる。この空洞化に歯止めをかけ、中心市街地に多くの人が集えるようにと、行政・商店街・商工会議所・NPO団体が協働で、子どもを視点においたまちづくり「まちなかプレイパーク」を提案している。「まちなかプレイパーク」は、中心市街地活性化に向けて行われているTMO計画に位置づけられている事業で、平成14年度より取り組んでいる。この事業では、学校5日制に伴い、子どもの居場所づくりとして中心市街地を拠点にさまざまな遊び場をつくり、子どもの遊びを通して地域社会や中心市街地の活性化を試みている。この取り組みは全国的にみても特色ある事業である。

また当センターでは、育児に不安や悩みを抱える親が、独りで子どもを抱え込まずにすむような子育て支援システムの構築を目的とし、その一環として親子でふらっと立ち寄りくつろげる空間「親と子のドロップ・イン（たまり場）」を実施している。このような空間が中心商店街内にあれば、買い物途中に利用できる、という子育て中の親の要望にこたえてキッズ・ルームを開設するに至った。

キッズ・ルームは、空き店舗を利用し、買い物に来る人たちのためのたまり場と子どもの一時的預かりを実施する。またベビーシッター養成講座を受講した10代のベビーシッターが、保育ボランティアをし、社会参画の場をもつ。日頃子育てに追われる若い母親が、あかちゃんや小さい子どもを預けてゆっくりと買い物をし、リフレッシュする機会を持つ。10代のこどもたちがあかちゃんや幼児と触れあうことにより、自分の中にある優しさや暖かさを発見する機会になることを目的にする。

3) 活動の内容

木～日の週4回の開催

買い物ついでに立ち寄りホッとできる場所

オープンの間に、自由に来てゆっくり遊ぶことができる。

一時預かりのシステム（保育）がある。

0歳～3年生の子どもの一時的預かりをする。

交流する場所

商店街の人たちとの交流や、3世代交流をできるようにする。

子育ての情報を提供する。

保育士の常駐

2～3名の保育士が常駐する。

ベビーシッターの社会参画の場

5～8名のベビーシッターが土、日に保育にはいる。

まちかど図書館の設置

専門家選りすぐりの絵本がたくさんあり、自由に読むことができる。

保育士やベビーシッターが絵本の読みきかせもする。

パネルシアター・人形劇・作って遊ぼうなどの企画

10代のベビーシッターの登録者

ベビーシッター養成講座を行い、登録者を増やす。

保育士の常駐

継続した保育士の常駐により雇用が生まれる。

親のこころの支援

子育て専用電話「ペアレントライン エコーズ」

毎週月曜日 10:00～16:00 開設

4) 活動の成果

キッズルーム利用状況

	開設 日数	一時預かり		親子で遊ぶ(ドロップ・イン)	
		人数	1日平均	人数	1日平均
1月	5	36	7.2	90	18.0
2月	16	102	6.4	52	3.2
3月	10	50	4.5	50	4.5

利用者アンケート

「まちに来た目的は」

買い物・・・18	見学・・・4	映画・・・1
病院・・・4	歯医者・・・1	事務手続・・・1
遊びに・・・2	食事・・・2	

「どちらから来られましたか。」

市内・・・39	市外・・・12	県外・・・2
---------	---------	--------

「意見、要望を聞かせてください」

・少しの間でもとても助かります。	17
・毎日やってほしい。	1
・これからも続けてほしい。	8
・おにいさん、おねえさんがとても気に入っていた。	1
・子どもが楽しそうで安心した。	6
・おもちゃがとてもいい。	3
・トイレが大変ですね。	1

活動の成果

- ・ゆっくり買い物をしたり、何年かぶりでデパートにいくことができたという喜びの声が多く聞かれた。
- ・市外からの問い合わせ、利用も多いことから、遠くても顧客のニーズにあえば、中心市街地に人が集まることがわかる。
- ・商店主との交流ができ、顔なじみになった。(交流の場)
- ・雇用の機会がある(保育士・臨時職員)
- ・空き店舗が活用できる。
- ・10代のベビーシッターの社会参画の場となる

5) 今後の展開

課題点

- ・予約制にはなっていないので、一時預かりの動向がつかめない。
- ・財源がなく、施設の整備が不十分であり、継続的な運営が見通せない。
- ・ベビーシッター養成は、大人になるための青少年育成にもつながり大切な講座だが、子どもたちも部活などで忙しいので参加が不規則になる。講座の積み上げが難しい。
- ・事業者の当事者意識が薄く、連携がとりにくい。

今後の展開

- ・NPO法人として事業性のあるものを取り入れ、経営安定を図ることが早急の課題。
- ・利用者や事業者の声を拾い上げるため、聞き取りやアンケート調査を行う。
- ・保育士、ベビーシッターの研修を年間を通して長期的に行う。そして、ただの預かりではなく、保育の内容をもう少し充実させていく。
- ・現在、当センターで子育て中の親を対象に行われている「親教育講座」をもっと積極的に取り入れ、「まちの中に生まれた子育て広場」として子育て支援を充実させていく。

6) 活動のポイント

・活動の人材

当センターはボランティアスタッフが約100名常時活動している。そのスタッフのうちアシスタントマザー研修を受講した保育ボランティア(25名)、チャイルドライン研修を受講したスタッフ(30名)を中心に保育士を募集し、7名が集まった。このうち、幼稚園教諭・保育士の免許を有し、保育士歴の長い者を一人責任者とした。その責任者を中心に7名でキッズルーム運営委員会を組織し、運営体制、キッズルームの施設・設備等の充実について協議した。子ども一時預かり体制を充実させていくのに、保育者としての経験が大変役に立った。

またベビーシッターについては、昨年6月「10代のベビーシッター養成講座研修」を新聞で募集したところ25名の参加があり、5回研修を実施。その若者を「Be Good みやざき」として登録し、講演会などの保育に派遣する活動をおこなっている。その「Be Good みやざき」にベビーシッター派遣を要請し、土、日を中心にキッズルームにはいってもらった。また、ボランティア希望する若者についても随時受け入れ、キッズルーム責任者がベビーシッター講座を実施して養成していった。10代の若者は、社会参画の場が与えられること、あかちゃんや小さい子どもと接し育児の大変さや命の尊さを知る体験ができることのほかに、ベビーシッター同士の異年齢交流が生まれたのも大変良い経験だった。また中心商店街にでてくる機会が増え、バスの定期を購入している者もいた。一時預かりの子どもにとっても、年齢の近いお兄さん、お姉さんと遊ぶのが楽しく、帰りたくない泣く子どももたくさんいた。

・活動のための資金調達

今回の貴団体の支援事業のみである。

・活動のネットワーク・支援

学識者

宮崎商工会議所TMO委員会にメンバーとして参加し、まちづくりを議論してきた。まちなかプレイパークでは、実行委員に加わってもらい専門的なことについて助言を受けた。また、まちづくりゼミを当センター事務所でおこなっているので、学生とのつながりができ、ベビーシッターとしても関わってもらっている。

商業者

子どもを中心にした文化活動をまちの中で実施したことで関わる大人や団体の姿が見えた。まちの情報を提供してもらったり、空き店舗を探したり、キッズルームのインテリア、看板デザイン等もアドバイスを受けた。最も大きい支援はデパートの空き店舗の提供であり、立地条件の良いところを貸していただいた。